

平成 25 年度研究成果中間報告書《平成 25・26 年度教育課程研究指定校事業》

都道府県・指定都市番号	65	都道府県・指定都市名	北九州市
ふりがな 学校名 (児童生徒数)	きたきゅうしゅう しりつはやともちゅうがっこう 北九州市立早鞆中学校 (239人)		

(本研究に係る問い合わせ先)

所在地：福岡県北九州市門司区清見三丁目13番1号

電話番号：093-321-3788 (FAX 093-321-3789)

研究内容等を掲載しているホームページの URL：http://www.kita9.ed.jp/hayatomo-j/

【研究成果のポイント】

○研究課題番号：5 (4) ESD

○研究のキーワード：心の育ち 環境教育 人権教育 体験活動

○研究成果のポイント：これまでの教育活動をESDの視点に立って分析し、それぞれの活動が生徒の変容、特に「心の育ち」にどのように作用したのかを明らかにする。

【研究の目的、研究内容】

(1) 研究主題

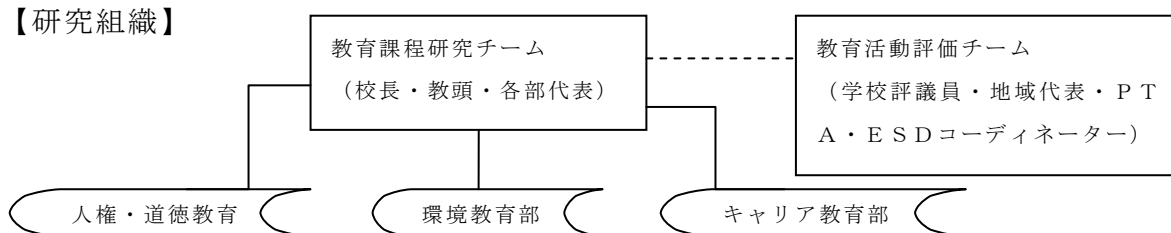
ESDの視点に立った「心の育ち」を支える教育活動の推進

(2) 研究主題設定の理由

- ① 数年前までの荒廃した学校状況を改善し、学校を甦らせてきたこれまでの心を育てる教育としての取組を、ESDの視点に立った教育活動として再構築することによって、将来的にも持続可能な社会づくりを担うことのできる生徒を育成したい。
- ② ユネスコスクールとして学校が地域とESDの理念を核として連携することで、生徒により一層郷土愛や自尊感情、活動意欲を高めさせ、課題解決に必要な能力・態度を身に付けさせたい。

(3) 研究体制

【研究組織】



(4) 1年間の主な取組の経過

平成 25 年 度	4月	校内研修①…研究計画の確認，各部詳細計画作成
	5月	ESDカレンダー（総合的な学習の時間年間指導計画）作成
	6月	校内研修②…ESDの視点について共通確認とアンケート実施
	7月	学期末校内報告会…アンケート結果報告
	8月	校内研修③…各部会におけるアンケート分析会と今後の取組確認
	9月	校内研修④…講師招聘（国研担当官），ユネスコスクール認定式
	10月	小中合同研修会…講演会，情報交換会
	11月	市内ユネスコスクール交流会
	12月	校内研修⑤…研究授業会，講師招聘（国研担当官），学期末校内報告会
	1月	校内研修⑥…中間まとめ（研究協議会発表内容検討，中間報告書作成）
	2月	研究協議会発表(東京)，2年次計画検討
	3月	アンケート実施，アンケート結果分析，2年次計画作成

(5) 具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

< 1 > これまでの教育活動についてのE S Dの視点での分析

- ① これまでの教育活動を環境教育，人権・道徳教育，キャリア教育の三分野に分け，それに対応した研究組織とした。
- ② E S D視点表の「能力」「態度」を行動指標化した「自己評価シート」を作成し，研究前の生徒の状況を調査・分析した。

< 2 > E S Dの視点を用いた，活動後における「心の育ち」の評価の検討

- ① 「心の育ち」に求める育てたい8つの心を，「校訓」や「持続可能な社会を担う人間像」を基盤に設定した。
- ② 各教育活動後，育てたい8つの心のうち「高まった」と思うものについて答える自己評価を行わせた。
- ③ 活動を計画する際，E S Dの視点に立った「ねらい」を設定し，事後の生徒自己評価と比較し，活動の有効性を検証した。

【研究成果とその意義等】

(1) 研究成果

① 実態把握と課題提示

E S Dの視点表を活用した「自己評価シート（アンケート）」を作成・実施した結果，学年が上がるにつれて全体的には「能力」に比較し「態度」は高くなる傾向があることが分かった。課題としては，個々の取り組む態度に差があるなど，集団としての望ましい態度形成には至っていない。

② 研究効果と研究主題へのアプローチ

ユネスコスクールに認定され，E S D推進校としての自覚が，生徒や教職員の活動に取り組む姿勢の中に随所に見られた。例えば，各活動において，教職員が細かく指示せずとも生徒自身が活動の流れを把握するなど，見通しを立てて行動することができるようになり，自然な形で円滑に教育活動を行うことができていた。その中で，「心を込めて」「丁寧に」「後片付けへの心がけ」「周囲への気配りやおもてなしの気持ち」が感じられる活動となっており，期待する「心の育ち」を可視化することができた。

③ 活動の広がりや研究の可能性

教育活動評価チームには，地域でE S Dを推進している中心的な人物である学校評議員を配置し，貴重な提言をしていただくなど，学校と地域が連携して活動することができた。

(2) 研究成果の意義等

前年度まで積み重ねてきた活動を継続し，精選しながらも発展させていく意欲と企画力が本年度の成果につながっている。生徒自身が，自らの活動により学校や地域の変化を肌で感じ，そのことを心の成長として自己評価できるようになる。特に，自分たちの活動を評価してくれる周囲からの声により，自尊感情が高まり，生徒が持つ能力や意欲が高まることでより発展的・恒常的な態度形成につながっていく。また，活動を評価した情報発信やアピールは，生徒の成長を促すキーポイントとなる。

(3) 研究2年目へ向けての課題と改善

- ① 学校行事や様々な取組における「心の育ち」について評価の標準化に向けた検討
 - ② E S Dの理念の教科，領域への位置付け方，カリキュラム化に向けての検討
 - ③ 小中一貫・連携の観点から，保護者・地域との連携したE S Dのさらなる推進
- 以上3点についてさらに研究を推進していく予定である。